



# 糸

# 図書館ボランティアだより

第10号



きずな

2011年6月 阪南市立図書館サポーター・ブックファン広報部会発行

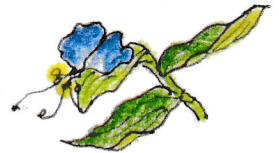


## 目次

自由＊空間	「男里川の観察会」	「郷土史に見る水害」	・・・ P 2
ご存知ですか	「本の修理・装備」		・・・ P 2
私のおすすめ	『トルストイの散歩道』	『自転車冒険記』	・・・ P 3
	『ウエスレーの国』		・・・ P 3
図書館からのお知らせ			・・・ P 4



## 被災地で感じた、ボランティアのもつ大きな力



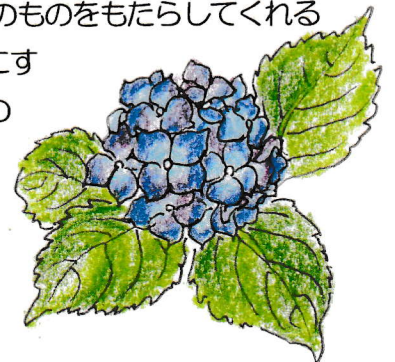
「本当にありがとう、生きる力がわいてきたよ」

気仙沼市の災害ボランティアセンターで活動したボランティアさんが、依頼者のおばあちゃんから涙交じりでいただいたお礼の言葉です。

私は、3月28日から4月2日までの7日間、社協職員として気仙沼市社協の災害ボランティアセンター支援に行ってきました。テレビ、新聞等で毎日のように目にしてきた被災地の光景ですが、実際にその場に立つとあまりの惨状に自分を含め同行したスタッフ全員何一つ言葉が出ませんでした。沿岸部は車で何時間走ってもただただガレキの山が続くばかり。そんな中で自分に何ができるのだろうと無力感すら感じましたが、既に災害ボランティアセンターには「何か力になりたい」と多くのボランティアが駆け付けていました。

災害ボランティアセンターには、避難所での支援や個人宅の泥出し清掃活動など、様々な内容がありますが、センターには老若男女問わず、たくさんのボランティアがおられました。中には「船が流されて何もすることが無いから」と被災された地元の漁師さんも協力してくれましたが、活動から帰ってこられると、とても被災者と思えないくらい生き生きとした表情をされていました。

また、冒頭のおばあちゃんのように涙ながらに感謝されることも数多くあったようです。こういった現地での活動を振り返ると、図書館ボランティアさんをはじめ日常のどんなボランティア活動にも共通することとして、活動者自身にとってもボランティア活動はたくさんのものをもたらしてくれるということや、単に労働力だけでなく「支えられている」と温かい気持ちにすることができることなど「ボランティアの力は大きなあ」と改めて多くのことを学ばせてもらったように思います。この阪南市内でも様々な分野でたくさんのボランティアさんが活動されていることを心強く思うとともに、少しでもこの温かい思いやりの輪が広がっていくように微力ながら頑張っていきたいと思っています。 猪俣健一（阪南市社会福祉協議会）



昭和二十七年七月十一日 豪雨がもたらした東鳥取村の鳥取池の決壊は、未曾有の規模により多大な被害をもたらした。――

和歌山県井関峠を源とし、尾崎町の大阪湾に注ぐ男里川は、谷間に沿った桑畑地区を一瞬に呑込んだ。合流域での増水が堤防決壊へ、河口までの更なる惨禍となった。当時を知る人は、長雨続きの後三日は異例の激しさで、そして誰もが危惧する事が起こった。未明の暗闇、恐ろしい程の濁流が迫る中を人々はさまよった。避難を呼掛ける消防の声は雨足に掻き消され、各自の決断が明暗を分けた。人口の三分一が犠牲になった地区があった。村一丸となり、不眠不休の復旧活動が始まる。気象台開設以来の一日降雨量(四〇三ミリ)。間もなく、この水害は災害救助法適用第一号となる。水害状況報告には、衣食住の保障・農作の救済・橋の復旧など、そして対策本部の苦心が記述された。

(参考資料 ミス寿美子 阪南町史)



自由空間

ゴールデンウィーク真っ最中の五月四日に男里川で恒例の生き物観察会を行いました。

当日は好天にも恵まれ、七十名もの参加者とにぎやかに楽しく川の中の生き物をそれぞれ思い思いに探しました。大勢で探した結果、アユやウナギといった魚屋さんで耳にするような魚や、三十センチもある大きなミシシッピアカミミガメ(ペットショップで売られているミドリガメ)その他色々なエビ、カニ、水生昆虫など二十七種類の生き物を観察する事ができました。

翌日も阪南子どもまつりで、それらの一部を展示し、多くの方々に見て頂きました。そして観察会の参加者や展示を見て下さった方々から「こんな近くでアユがいるんや」「こんな色々な生き物があるんや」など阪南市の身近な自然を実感してもらええる感想を沢山頂けた事をとてもうれしく思いました。

今後この自然が今以上に豊かになって残っていく事を望んでいます。

河野通浩 (自然と本の会)

《ご存知ですか》 本の修理・装幀

図書館フレンズに参加して2年過ぎやっと慣れてきました。私達の参加している修理分野の仕事の内容は、破損図書(破れ、綴じ部の壊れ等)や汚れた本の清拭(手垢の付着、食べ残し、いたずら書き等)、CDケースの破損修理、新刊本のフィルム表装(装幀といいます)等です。修理の方法も、色々なケースがあり、最初は先輩のやりかたを見様見真似で覚えました。しかし慣れてくると試行錯誤ですることもあり、上手く出来ると、やった!!と内心思うこともあり達成感を感じます。一番困るのはセロテープでの修理で、除去に手間がかかります。輪ゴムでとめるなどして、返却時に伝えて下さればと思います。また本にボールペン等でラインを引いていると消すことができません。図書館の本は市民の宝物です。次に読まれる人が気持ち良く利用できるよう、丁寧・大切に扱うよう努めていただきたいものです。高木 昂

〈児童書〉

『トルストイの散歩道』

レフ・トルストイ / 著 北御門二郎 / 訳

あすなろ書房

K983トル

〈フィクション〉

『自転車冒険記』

竹内 真 / 著 河出書房新社

Fタケ

先月十二歳になった北斗は、中学生でもない小学生でもない春休み、東京から大阪までの一人旅を計画した。父・昇平の影響で自転車イベントへの参加経験や知識が豊富とはいえ、簡単には両親の了承が得られない。昇平がサポートにつくという案と、「母さんのために何かする」という課題をクリアすることでようやくスタートにこぎつけるが、二人を思いもよらないアクシデントが待っていた。

聡明さやたくましさを持つ反面、幼さや思慮の足りなさをのぞかせる北斗だが「自分の力がどれくらいで、何が無茶だったかがわかり、そこから学んで成長してほしい」とそんな父の思いはしっかり息子に届いたようだ。

快走する北斗の様子がツイッターやブログで伝えられており、そういう場面がさらに受け入れられる時代になった。

昇平世代の前作「自転車少年記」もお薦めです。

森下喜代子

私のあすなろ



レフ・トルストイとは、「戦争と平和」や「アンナ・カレーニナ」「復活」などの長編小説で知られるロシアの文豪である。一方で子どもたちにもわかりやすいいくつかの民話を遺している。一般の民衆に理解されるものを民衆自身の言葉で、民衆自身の表現で簡素にわかりやすく書こうと決意し、次々と民話が誕生した。

シリーズは全五巻で、「人は何で生きるか」「イワン馬鹿」「人にはたくさん土地があるか」「老人」「愛あるところに神あり」の5冊よりなる。当り前のことが書かれているが面白くて、心を動かされる。

訳者の北御門二郎はトルストイの民話に出会ったことで自らの生き方を決定させた人で、それについて解説に書かれているのも興味深い内容である。訳者はあとがきでトルストイの民話について『神の国を地上にもたらす平和革命の書』である。そしてそれはそのまま、仏陀の慈悲に、孔子の仁に、老子の道に通じている』としている。これらの本は児童書のコーナーに置かれているが、大人こそ読んで、忘れかけている何か大切なものを感じたい。

橋本範子

〈子どもの本〉

『ウエズレーの国』

ポール・フライシュマン / 著 ケビン・ホークス / 画

千葉茂樹 / 訳

あすなろ書房

E

ウエズレーはほかの子とちがっていて、友だちもいない。でも夏休みの自由研究で、独自の作物サルーシュ（彼が名付けたもの）を育て学んだ知識を駆使し衣・食・住を賄います。近所の子たちも興味を示しだんだんと仲間になっておとなのつくった既成の世界から飛び出します。時間や数のかぞえ方さえも自分で決め、文字や言語も考え、みんなを巻き込んで文明を創り出しウエズランディア・ウエズレーの国を作り上げた彼はすごい。皆さんの中にもきっとこんな力は潜んでいるはず。一步踏み出す力を与えてくれる作品です。谷本美由紀

# 平成23年度第1回 本のリサイクル

【日時】6月26日(日) 午前9時30分～午後2時

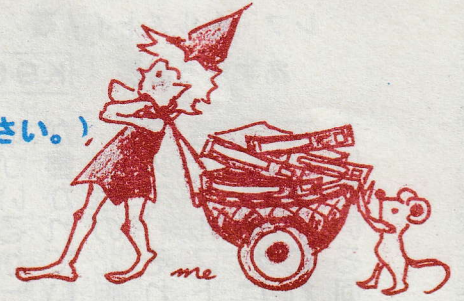
(ご利用が少ないため2時までになりましたのでご注意ください。)

【場所】サラダホール2階視聴覚室

【対象】本市在住・在勤・在学で図書貸出券をお持ちの方

【持ち物】図書貸出券・ボールペン

【内容】除籍した図書館の古い本。雑誌・児童書はありません。おひとり10冊まで。(お譲りした本は営利目的に使用できません。)



今回出る本は・・・

日本の小説・文庫本(SF、推理もあり) 外国小説(英米・仏・独・他) 手芸 自然科学  
文学研究書(短歌・俳句・詩など含む) 他

※ 貸出券を忘れた場合は入場できません。事前申し込みは不要です。

※ 混雑時は入場制限を行う場合があります。

入口の丸テーブルに寄贈本を入れていただいておりますが、本だけでなく、寄贈CDも受け付けています。ケース・解説書付でお願いします。本と同じく、キレイな物なら何でもOK! よろしくお願ひします。(全部を図書館資料として受け入れるわけではありません)

## 新サービス

## 手のひらサイズの拡大読書器入荷!

小さい字が見えにくい時、「あ!メガネを忘れた!」という時、カウンターにお聞き下さい。貸出用メガネももちろんありますが、もっと大きな字なら読みやすいのになあ・・・と思われた事はありませんか?

そんな時の強い味方が入荷しました! 手のひらサイズの拡大読書器、ルビーです。24時間テレビからご寄贈いただいた、最新鋭機です。操作は本当にカンタン、どなたにもお使いいただけます。2倍～14倍までの倍率で対象物を拡大表示できます。

しかも、色まで変えられます。フルカラー、白背景・黒文字、黒背景・白文字、青背景・黄色文字、黒背景・黄色文字が順に変わっていきますので、本を読む時に見やすい色の組み合わせをボタン1つで選択できます。カウンター前の机で自由にお使いいただけますので、ぜひご利用ください。

